

## 令和4年度 食品ロス削減推進協議会 議事要旨

### 1 日時

令和5年2月17日（金） 13:30～15:00

### 2 場所

県庁舎 議会棟1階 第1会議室

### 3 出席者

○委員9名（委員14名のうち5名欠席）

氏名	所属団体・役職等
デュアー <small>たかこ</small> 貴子	東海学院大学健康福祉学部学部長 教授
まえざわ <small>しげのり</small> 前澤 重禮	岐阜大学社会システム経営学環特任教授
きたの <small>しげき</small> 北野 茂樹	岐阜県食品産業協議会会長
あきもと <small>たけし</small> 秋元 武	(株) パローホールディングス 管理本部サステナビリティ推進室長
たかはし <small>しげお</small> 高橋 重夫	岐阜県飲食生活衛生同業組合理事長
やまもと 山本 さちよ	岐阜県食生活改善推進員協議会副会長
いとう <small>りさ</small> 伊藤 理佐	生活協同組合コープぎふ組合員理事
ごとう <small>みほ</small> 後藤 美保	(公社) 岐阜県栄養士会副会長
ごとう <small>ひでや</small> 後藤 英矢	関市市民環境部環境課長

### ○事務局（岐阜県環境生活部）

大野 雅人 環境生活部次長  
山下 靖代 環境生活部県民生活課長  
松葉 憲生 環境生活部県民生活課消費生活対策監  
古川 有里 環境生活部県民生活課課長補佐兼消費生活安全係長  
田中 巴深 環境生活部県民生活課消費生活安全係

#### 4 議事要旨

##### (1) 座長の選出について

事務局よりデュアー委員を推薦。他委員からの異議なしのため、デュアー委員に決定。

##### (2) 令和4年度推進施策実施状況について

事務局から令和4年度推進施策実施状況の説明を行った後、委員との意見交換を実施。

##### 【委員】

- ・ 県の取組みを多くの方に知っていただくため、バローは消費者への啓発の窓口として、てまえどり運動やフードドライブなど、県と連携を図りながら取り組んできた。来年度以降、いかに多くの県民に広げていくかということが課題である。今後、県とバローの双方で取組みを深化させていきたい。

##### 【委員】

- ・ てまえどりは、以前から全国の生協で大きく広がっている考え方であり、独自にポップを作成している店舗もあった。今回、初めて県がポップを作成していることを知った。生協も是非、てまえどり活動に参加したい。
- ・ フードドライブについては、毎月10日をフードドライブの日とし、2カ所のコープ店舗で実施しているが、なかなか浸透していないと感じる。拠点がないとできないので、拠点があるところで積極的に実施してほしい。

##### 【委員】

- ・ 東海学院大学でも、学生がフードドライブを実施している。フードドライブという言葉の認知度が低く、フードバンクとの違いが分かりにくいいため、岐阜県独自の言葉を作ってもよいのではと思う。できるだけ分かりやすく伝えるためにどうしたらよいかという視点で検討してほしい。

##### 【委員】

- ・ フードドライブをいかに多くの県民の方に知っていただくかということを、活動の中心にしていこうと思っている。単発のイベント等でフードドライブを実施した場合、その時は県民の意識・行動変容につながるが、それを継続していくことが難しい。県民の方との接点をできるだけ多くしていくことが重要。
- ・ 今後、預けられた食材等を、子ども食堂、フードバンク団体等に提供する「フードドライブポスト」を、岐阜市1店舗、各務原市1店舗に設置する予定。富山県、滋賀県、石川県では先行して10か所設置している。フードドライブを常態化し、残った食材をバローに持っていけば無駄にならないという状態を目指して、早期に実現したい。
- ・ 令和5年5月からFC岐阜のホームゲームで、毎試合フードドライブを実施する予定。多くの人が集まり、子どもが関心を持ちやすいので効果的だと考えている。集まった食材等

は、子どもの居場所応援センターを通じて各団体に寄付する。食を預かる流通業として、食品ロスの削減に取り組むとともに、食材が必要な方への橋渡し役として、ひとりでも多くの方にフードドライブ活動を知ってもらうための活動をしていく。

#### 【委員】

- ・生産、販売、購入、消費量のアンバランスによって食品ロスが発生する。スーパーマーケット等はいかに販売量をあげるかということが中心で、消費を促すような広告が多くある。消費者は、それに影響されて余分を買ってしまう。企業活動に反するので難しいかもしれないが、必要な量だけ購入すること等の啓発も必要である。
- ・たまえどりが大切だと分かっているにもかかわらず、実際は新しいものを選んでしまう場合もあるため、それを踏まえた情報発信が必要。社会貢献への満足感等につなげることで、余分な購入を抑制できるのではないか。
- ・イベントの来場者数や啓発物の配布数など、数で測れる指標ではなく、もう一步踏み込んだ効果検証が必要。

#### 【委員】

- ・県作成の動画について、小さい子どもに分かりやすい内容でとても良い。バロー恵那ショッピングセンター2階の「恵那中出張所 えなえーる」が活動の場となっている。毎月17日「減塩の日」、19日「食育の日」等にあわせた啓発の場で、動画を活用したい。
- ・買い物に行く前に、冷蔵庫を見て買い物リストを作るなど、消費者が取り組める内容に関する啓発を実施していく必要がある。

#### 【委員】

- ・1日でも新しい商品が欲しい方、割引された商品を購入したい方など、考え方は人それぞれなので、できるところから進めていけばよいと思う。

## (2) 令和5年度推進施策について

事務局から令和5年度推進施策の説明を行った後、委員との意見交換を実施。

#### 【委員】

- ・栄養ケア・ステーションでは、クリニックや小さな医院での栄養指導、出前講座の講師、衛生管理の啓発等を実施している。食品ロスの啓発を食べ方指導等と併せて実施していけるのではと思う。
- ・近年の災害で防災意識が高まっており、令和3年に県と県栄養士会で、災害時の県民の栄養管理や食生活の支援に関する協定を結んだ。防災教室は、ローリングストックを念頭に置きながら、防災備蓄食品の活用について講座を実施しており、食品ロスの削減に関する啓発にも協力できると思う。
- ・学校の調理実習では、実体験を通して食品の廃棄を減らす啓発を実施する。

**【委員】**

- ・県内の家庭系食品ロスの多さに驚いている。非常に難しい問題である。

**【委員】**

- ・冷蔵・冷凍庫内の商品の出し入れが、デジタル上で管理できるようなアプリができるとよいが、すぐには難しい。食品カレンダーなどを活用し、食品ロスを少しでも削減できればと思う。

**【委員】**

- ・行政としてできるのは情報発信。できる限り協力していきたい。

**【委員】**

- ・今年度、高校生と食品ロス削減に関する啓発を実施したが、食品ロスという言葉の認知度はあっても、具体的な行動変容につなげるのは難しいと感じた。県食品ロス削減推進計画の基本的目標である「食品ロスの削減（3つ以上）に取り組む県民の割合：2030年度までに100%」はハードルが高いと感じる。
- ・若年者は、実体験を通じた学びでないと行動変容にはつながらない。実体験を通して学べるような企画があると良いと思う。

**【委員】**

- ・適切な賞味期限の設定に関する技術的な相談は非常に重要だと思う。製造者側は、期限を長く設定すると、商品の回転が遅くなるため、ジレンマが発生している。そこをどう指導していくかが重要。一方、消費者側は、消費期限と賞味期限の正しい理解ができていないケースがある。双方の知識を深め、行動変容につなげる取組みを実施してほしい。

(3) その他

**【委員】**

- ・小学生以下に対する食育の推進が重要。親世代の行動変容にもつながる。
- ・パローの食品ロス削減の取組みを教えてほしいと愛知県の学校からアプローチがあった。県作成の動画等を授業に取り入れて、授業のプログラムを組みたいと思う。社会科見学、出前講座、店舗でのフードドライブを連動させるような動きを仕掛けていきたい。
- ・実際に体験させないと気づきがない。

**【委員】**

- ・出産や子育てが、食について考えるきっかけになる。これから子どもを持つ世代に向けての情報発信も実施していただくとよい。